



学校祭、お疲れ様でした！今年も皆さんの熱い思いがギュッと凝縮された、素晴らしい学校祭でしたね。

ところで、学校祭準備期間中に、7月初旬に受験した進研模試の個人成績表が返却されました。7月模試は、1年生にとって初の「全国デビュー」、2年生にとっては初めて志望校判定が出された模試です。3年生は、マーク模試とのドッキング判定も出て、入試本番に対する意識も一層高まっていることでしょう。成績が返却されると、真っ先に順位や判定に目が行くという人もいますが、より効果的に成績表を活用するためには何をポイントに見たらよいのでしょうか？今回の進路ニュースでは、高校1年生のシンケンモシタロウさんの成績表を例に、個人成績表の見方を確認してみましょう。

① 得点・偏差値を見よう！
得点：平均点は35点前後。
偏差値：「全国で大学受験を考えている高校生の中で自分がどれくらいの位置にいるか」が分かる指標。

③教科のバランスを見よう！
2年生7月模試までは国数英の3教科で受験するため三角形、2年生11月模試以降は5教科で受験するため五角形で教科バランスが表される。得意科目は自分の武器になるが、極端な苦手教科があると、伸び悩む可能性が高い。自分の強みを自覚した上で、伸びしろにも目を向けて対策を続けると、図形が大きくなっていく。

②GTZを見よう！

G＝学習

T＝到達

Z＝ゾーン

大学進学を考える際の自分の学力レベルの目安。ここをひとつずつ伸ばしていくことが大事です。

Sゾーン：難関大合格レベル

Aゾーン：金沢大、福大など

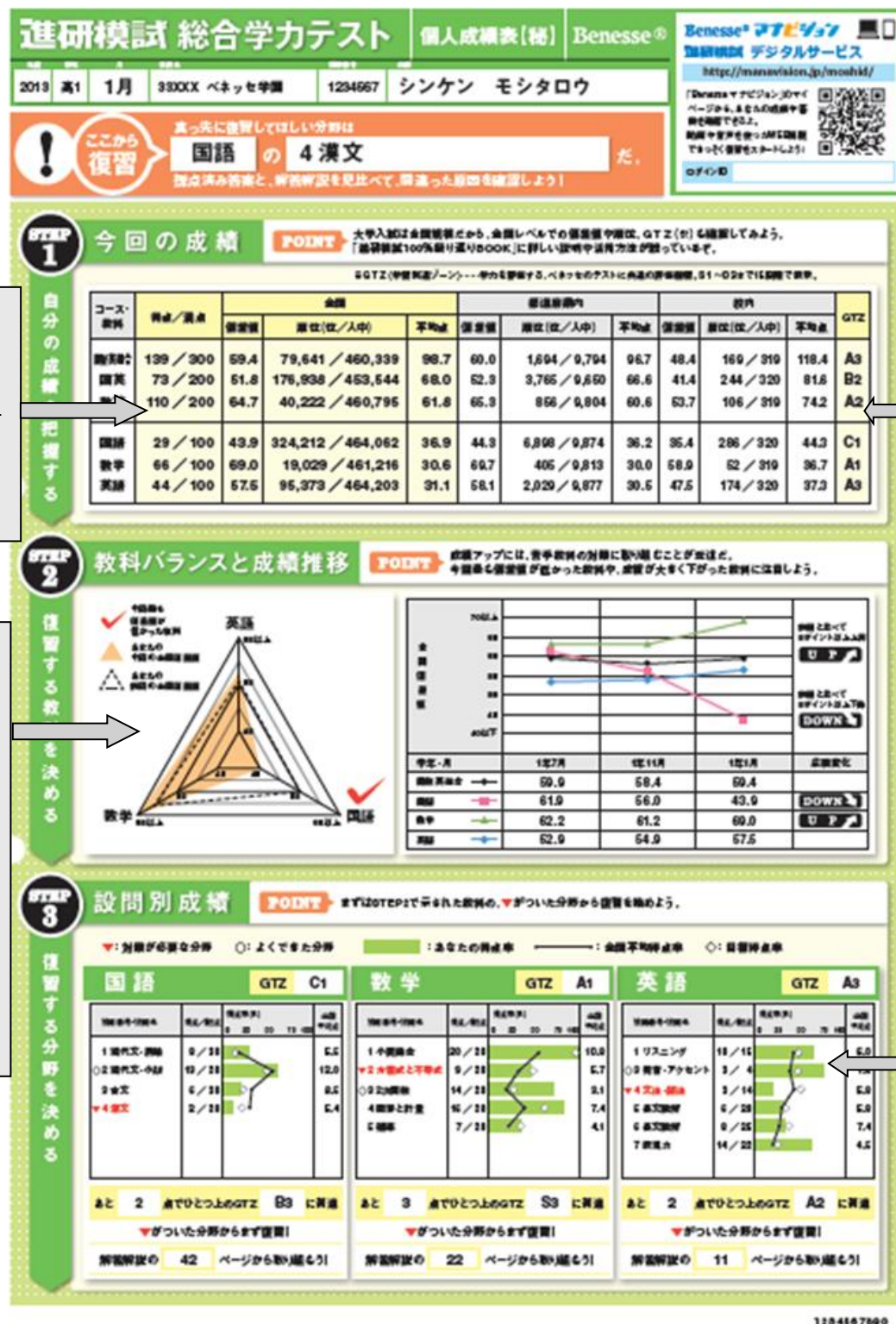
国立大合格レベル

Bゾーン：福井県立大など

公立大合格レベル

④折れ線グラフを見よう！

棒グラフが折れ線グラフに届いていない所が全国平均に比べて苦手なところ。例えば、シンケンモシタロウさんは、国語のGTZがCゾーンだが、「国語が悪い」だけでは改善策は見つからない。折れ線グラフと棒グラフの離れ具合から見て、復習の一步目は「漢文」（赤字で書かれている）だということが分かる。



まだまだ暑い日が続きますが、気候的に過ごしやすくなる秋は、学習や部活動などに一層打ち込みやすい時期。特に、3年生にとっては、夏に蓄えた力と相まってグッと実力が伸びる時期でもあります。模試の順位や偏差値などの数字、志望校の判定のアルファベットに一喜一憂せず、自分の強みと弱みを知った上で、具体的な対策を立てて2学期に臨んでください。

【お知らせ】

～進路資料室リニューアル＆生徒用コピー機導入～

3年生の皆さんの中には、総合型選抜・学校推薦型入試の準備を始めている人もいます。主にその対策用として、過去に推薦入試を受験した先輩達の受験レポートや小論文の過去問など、関連する資料を進路資料室に集めました。自分で志望校のアドミッションポリシーや、面接・小論文の過去問を調べたりする中で、試験の傾向をつかみ、対策に生かしてください。ただし、いずれも貴重な資料であるため、進路資料室から持ち出すことは禁じます。新たに生徒用のコピー機（有料：1枚10円）を導入しましたので、資料を入試対策に活用したい人は、コピーして使ってください。

また、1、2年生の皆さんも、気軽に進路資料室をのぞきにきてください。「こんな問題が出るのか」「面接でこんなことがきかれるのか」など、今後の参考になりますよ。

